釣れ釣れなるままに

２００５年思い出の釣行記 PART.　３

誤算？
いやいやねらい通り

鹿島釣狂

☆釣 行 日	平成１７年５月２９・３０日			
☆入釣場所	小平蕊川右、苫前三角、苫前漁港、力昼丸須橋付近			
☆釣　　果	アブラコ	４４０	㎜	４
	ホッケ	３３０	㎜	２
	クロガシラ	２７０	㎜	１
	アカハラ	４００	㎜以下多数	

異常気象とエビまつり（増毛港）

今年の気象は異常である。砂川では史上かつてない大雪に見舞われ、春先の雪解けも遅く、例年だと終わっているはずの農家の田植え作業もようやく始まったばかりである。毎日眺めるインターネット上の天気予報も、猫の目のようにクルクルと変わり、心配された週末の天気予報も晴天へと変わった。気温もグングン上がってきて、北から吹いてくる風が気持ちよいぐらいだ。昼近くになると空には少し雲が増してきたが、暖かい南風に変わり、釣りとしては申し分のない絶好の日和となった。オロロンラインでの６月大会を控えて下見に行くことにした。

北竜から峠に向かう道路脇にはやはり雪が残っている状態であったが、盛んに田植えをしている最中であった。雪を見ながらの田植え風景は何か釈然としないものがある。増毛に着いて背後を振り向くと、暑寒岳を中心とする増毛連山の北斜面は、雪で真っ白に覆われ、初夏の陽差しを浴びて銀白色に輝いていた。

本日は増毛港でエビ祭りがあると同僚から情報を得ていたが、エビ祭り会場には向かわずに真っ直ぐ増毛漁港に向かった。遠藤水産前にはエビを求めて長い行列ができ、増毛港にも車がギッシリと駐車しており、会場での混雑ぶりが窺えた。同僚によると午前８時に増毛に到着したが、主催者側で用意した２０００箱の甘エビの引換券を求めて長蛇の行列ができ、１０時の開店後間もなく売り切れてしまうという盛況ぶりだったようである。延べ２万人の人出があったようだ。

漁港では中央の荷揚げ埠頭の岸壁に若干の釣り人がいるだけで閑散としていた。朝方、ポツポツとホッケが来ただけでさっぱりだという。

小平蘂川河口右

アカハラ釣りで有名な小平蘂川の河口に向かう。小平温泉で遅い昼食をとるが、１４時を回っていたのでランチタイムメニューが終わり、少ないメニューの中から味噌ラーメンを注文する。スープに味噌の大豆が浮いており、見た目はこってりとしているが、味の方はすっきりと洗練されたものでなかなかの美味であった。昼下がりの陽差しを受けてゲートボールに興じるグループのプレーを眺めながら、スープの最後の１滴まで啜った。

小平蘂川河口の両側には流れに沿って３０ｍ程の長い砂州が突き出ており、アカハラ釣りには狙い目だと思われる。遠投をすると根原に届き、嫁のアブラコをとるにも絶好の様相をしている。

１５時、河口の右にある階段状に整備されたなだらかな護岸堤に竿をセットする。浅海からハゴトコが２匹来たが、この時間帯なら無理もないだろう。根掛かりはさほど気にならない。アカハラの状況を確かめるためにイカゴロを１０本使ったが、その気配を感じない。代わって、波打ち際に５０センチを超えるアカハラが目をくりぬかれ、腹を引き裂かれて漂っていたのが、唯一、アカハラの棲息を主張していた。

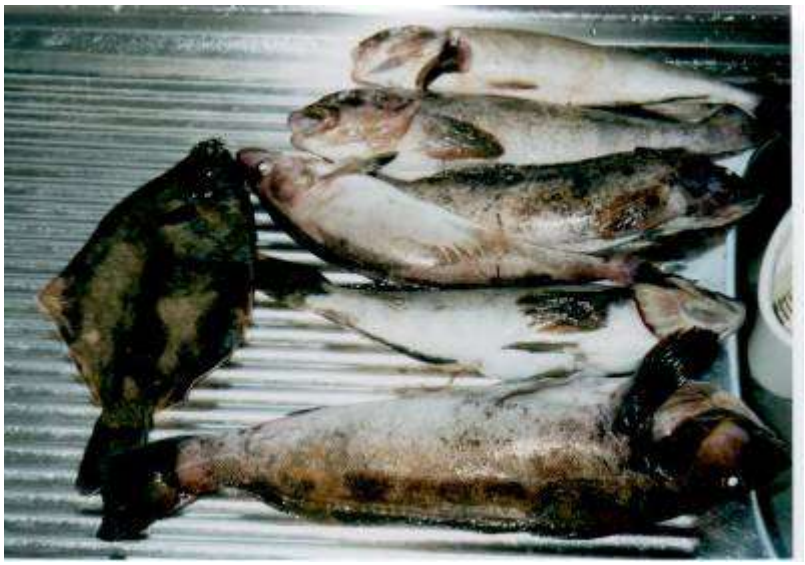
少し遅れて、私の左右に入った釣り人も同じ状況である。１週間前の釣りでは、私の所でクロガシラのよいものを上げたと教えてくれた。

苫前三角・漁港

１７時、力昼の海岸線を眺めながら苫前三角（B）に着いた。波打ち際はきれいな荒い砂浜だが、１０メートル先は岩盤となり、一面にホンダワラが浮き、それが１００㍍ほど沖にまで続いている。１本防波堤と外防波堤の中央に竿をセットした。

しばらくアタリがなく、砂浜に寝そべっていると、港内で釣っていた御仁が様子を見に来た。最近の釣りのことなどを話している最中に小さなアタリがでたので竿に手を掛けると、グングン、グーンと締め込んだ。根を交わしながら波打ち際に現れたのは４５㎝程のアブラコだった。その後、アカハラがパタパタと続き、４０㎝程のものも確認できた。何度か大物を予感させるよい引き込みがあるのだが、途中の根が鋭く、道糸がスパッと簡単に切れる。アタリに備える細心の注意と仕掛けへの工夫が必要になるだろう。３５㎝程のアブラコを追加した２０時に苫前漁港（C）に向かう。

漁港の一番奥の舟溜まりに竿が林立している。端から数えていくと１５本が、２本の三脚や岸壁にある板きれを利用した急造の竿立てを利用して立て掛けられている。釣り人はたった２名だ。先程、三角に様子を見に来た御仁と、その友人が炭火をおこして焼酎を煽っているところであった。炭火の上にあるはずの焼き肉はすでに無く、その残骸が網の縁にこびり付いて残っていた。



朝から新しくできた防波堤でやっていたがさっぱりで、港内に様子を見に来ると、彼らの仲間が昨日の暗い内にクロガシラの３０㎝ほどのものを３０匹ぐらいも釣ってお

り、５０㍑のクーラーが満杯になっていたと言う。自分たちにも来ると信じてやっているが、やっとクロガシラが２本来ただけだとスカリを引き上げて見せてくれた。

火があるとどうして人は集いたがるのだろう。焼酎をご馳走になりながら私も仲間に入れてもらった。士別から来ており、いつもこの苫前周辺で釣りをしているらしい。オロロンラインの釣り場状況について尋ねているうちに、「どこに勤めている？」「何を釣っている？」「釣りの取材か？何でもよく聞くからな」とこちらに矛先が向かってきた。

２２時、彼らから少し離れて竿をセットする。アブラコ３０㎝が来た。さらに、アカハラに混じってクロガシラ２７㎝、ホッケ３０㎝と続いたが、大物は来ない。２３時を過ぎると全くアタリはなくなった。午前２時に力昼に向かう。

力昼

大前事務局長がよく入釣してアブラコやアカハラの大物をもってくるのが力昼海岸であるが、どのあたりなのか見当がつかない。波打ち際から５０ｍほど沖までの浅海にサラシ根がいくつも突き出て似たような海岸が続く。

ホンダワラの根原を避けて、岩場が切れ込んだところに竿をセットしたが、アタリが出ない。生サンマがなくなり、塩サンマに変更したためだろうか。イソメもたっぷり付けているのだがそれにも来ない。

キャップライトを必要としなくなった４時頃、ようやく３５㎝程のアブラコがあがった。遠投にホッケも来たがこれはチビだった。漁師がやってきて、ホンダワラの根原でタコ捕りを始めた。この根原は本当に浅いのだ。やがてその漁師は網袋にタコを２本入れて悠々と去っていき、私もその場を離れた。今回の釣行の結果から、６月の大会は苫前三角と決まった。

粘り勝ち

岩見沢釣遊会第３回大会

☆開 催 日　平成１７年６月１２日
☆開催場所　小平蘂川～羽幌港
☆入釣場所　苫前漁港三角→漁港左
☆天　　候　雨　波　１ｍ後１．５ｍ
☆エ　　サ　カツオ４本　サンマ４本　イカゴロ８０本　イソメ１箱
　　イワムシ１箱　エビ２パック　ホヤ２個
　　撒き餌　イサダブロック２個　ソイアブラコカジカ３袋
☆釣　　果　**アブラコ**　４４３　㎜　１
　　アカハラ　４３０　㎜　２
　　カジカ　３８０　㎜　１
　　クロガシラ　３００　㎜　１

	重量	３５０　０ｇ
☆成　　績	合計点数	１２３０　点
	成績	準優勝
	累計点	１１　点（②⑦②）

釣り場を決定してしまうと、大変気持ちが楽である。移動場所も限定されているのであれこれと考える必要がなく、釣り場に合わせて、仕掛けやエサ等も準備できるからである。目標は、アブラコ４０㎝、アカハラ４０㎝、重量３キロの１１００点とした。

１週間前、ノバ東店でホヤを売っていたので購入してみた。産地名は三陸で黄色いホヤである。仲間内では利尻、留萌産の赤いものがよく、他のエサと合い掛けしているということだが・・・。早速ホヤを切ってみると、中から細く黒い針金を巻いたような腑が出てきた。植物ではなく、動物なのだと納得する。貝の仲間だろうか。ナマコの仲間でないかという者もいるが定かではない。効果はいかがだろうか。

ステンレス製の三脚は重いので移動に便利なアルミ三脚を購入する。一カ所ドンのつもりでいるが平磯なので、２つの三脚に竿を２本ずつ、合計４本をセットし、三脚の分だけ交互に少しずつ移動して探り歩く作戦である。２号の磯竿でアカハラもねらってみようと考えている。

釣りバスの中で、大椴に入る予定であった高橋氏と安曽氏が、仲間から砂浜では嫁のカレイは間違いないが、大会では苦戦する旨の忠告があり、私と一緒に苫前三角に入ることになった。三豊から脇道を入り、苫前漁港で降りる。バスの中の話では、交綸会の４名が入っているはずだが誰もおらず、貸し切り状態であった。私は先日下見に入った中間地点、安曽氏は比較的根が多い１本防波堤の脇、そして、高橋氏は私と安曽氏の中間に入った。

現地では雨が降り続いており、寒さ対策のため着込んだセーターの上にカッパも羽織ったので汗が噴き出す。安曽氏はカッパが嫌で傘を差しているが、釣りに支障はないのだろうか。アカハラは次々と来るが３０㎝程のものばかりであり、それも甘エビばかり来て、用意したエビがすぐになくなった。チビアカハラの猛襲に嫌気がさしてきた頃、ガクンと竿尻が持ち上がり、４０㎝弱のカジカがカツオの身エサに来た。待望の４０㎝程のアカハラもゴロに食いついてきた。高橋氏がカジカ３５㎝、安曽氏はクロガシラ２５㎝を嫁としている。

２時を過ぎると３人ともアカハラのみで他の魚種の兆候を感じなくなった。下見とは違いアブラコが来ないのでアカハラ組には負けるだろう。明るくなって海をみると、潮が濁っている。アカハラやカジカにはいいが、アブラコには濁りすぎだろう。今回はここで１カ所ドンと考えていたが、釣り場を離れて漁港の左の磯（Ａ）を見て回る。根は見えないが、１艘の磯舟がウニ捕りをしており、長い柄のついたタモを操っている。隠れ根にウニがへばりついているのだろう。タモの柄も最後の一握りまで送っているところを見ると程よい深さもあるのだろう。

移動を決め、ウニ捕りの磯舟を避けて、少しずつずれながら打ち歩く。しかし、根掛か

りも多くアタリはハゴトコのみである。あきらめかけた６時半、ガツン、ガツンと大アタリがでる。竿を煽るが根掛かりしており、このまま強引に根から引っ張り出すか、一旦竿を置いて魚が自ら出てくるのを待つかの判断が難しい。道糸を張ったまま様子を聞くが、魚は付いており、仕掛けが海藻に絡んでいるのではなく、岩にガッチリと掛かっているようである。竿を持ったまま道糸をゆるめて魚が根掛かりを外してくれるのを慎重に待つ。長い時間が経過した。再度、強いアタリが出たのに合わせて竿を煽るとズルッとゆっくりと抜け出て来た。波打ち際で再度鋭い突っ込みをみせた獲物は、水面から胸びれを覗かせ大物アブラコと分かる。奴はイカゴロに食いついていた。これで、４２０（アブ）＋４００（アカ）＋３００となり目標にしていた１１００点を上回ったはずだ。

審査結果

優　　勝	前野達志	１３４１点（アブラコ500㎜+カジカ　500㎜+5000g）	小平蕊川右
準 優 勝	鹿島釣狂	１２２３点（アブラコ443㎜+アカハラ430㎜+3500g）	苫前三角
３　　位	谷口良幸	１２１６点（アブラコ500㎜+カジカ　500㎜+5000g）	力昼漁港
４　　位	山岸　伸	１２１５点（アブラコ500㎜+カジカ　500㎜+5000g）	力昼漁港
５　　位	吉井　博	１０２９点（アブラコ500㎜+カジカ　500㎜+5000g）	小平蕊川左
身長優勝	前野達志	５３．５㎝（アカハラ）	小平蕊川右

優勝は前野氏で古丹別川河口入釣予定から急遽変更して小平蕊川河口右に入った釣果である。当初、私と一緒に古丹別と考えていたらしいが、私の苫前行きを聞いて、暗い中での入釣は恐ろしくもあり寂しくもありと変更したようだ。小平蕊川河口に長く突き出ていた砂州は無くなっていたが、結果は大正解だった。暗い内から携帯でアブラコを抜いたと報告がある。アカハラも５３．５㎝、１．８キロのマスのような大物を頭に５０㎝を超えるものを揃え優勝した。

３位・４位になった谷口良幸、山岸　伸氏は力昼漁港に入釣後すぐに４０㎝を超すアカハラが次々と釣れたということである。１週間前のＳＴＶ放送「釣ーリング北海道」でクロガシラを狙って力昼漁港に入ったささげ敏夫、工藤準基、三好りさの一行がアカハラの大物を次々と上げていたのが思い出された。

堀内正博・庄司幸吉氏は花岡でバスを降りて、高い胸壁からの下り口を探しているとキャンプをしている釣り人が急遽作った梯子を差し出してくれたという。キャンプしている人たちはほとんど釣れないのだが、後に入った彼らはホッケを大漁したが、アカハラが小さく入賞はならなかった。

私はといえば、思いの外魚が大きくて準優勝であった。コホン、コホン。ウオッホン！

終わり